



構築支援事業を卒業する自治体のうち、 香川県、相模原市、名古屋市から卒業メッセージを いただきました！

このたび、令和3年度をもちまして、いくつかの自治体が構築支援事業を卒業することとなりました。

卒業する自治体のうち、香川県、相模原市、名古屋市から次のとおり卒業メッセージをいただきましたのでご紹介いたします。

香川県

①構築支援事業で取り組んだこと、その効果・成果

香川県では5年間、全圏域に協議の場の設置を目標に本事業に取り組みました。高松圏域をモデル圏域として、行政・医療・福祉が協働で看護師向け研修会や茶話会を実施。病院から地域移行該当ケースを紹介されるようになり病院の意識改善を図ることができました。高松圏域で効果があり、モデル圏域を小豆圏域、大川圏域と順次拡大していきました。県は広域アドバイザーに依頼し、市町障害福祉担当者や圏域マネージャーに対し協議の場の設置の必要性をテーマに研修会を実施することで、保健所圏域から市町自立支援協議会へと協議の場の移行・設置を完了することができました。県は全圏域で意見交換や横展開を目指し「精神障害にも対応した地域包括ケアワーキング」の立ち上げに成功しました。このように圏域間の横展開が図れるようになったこと、圏域独自で協議を進め事業展開をできるようになったこと等の理由から本事業を卒業することにしました。

②今後の展開方針

引き続き、各圏域の特性に応じた「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」の展開を目指します。県としてはあらゆる課題から、全圏域の共通課題であるピアサポート活動の有効性を広める取組を実施する方針とします。引き続き、圏域の核となる行政・医療・福祉の担当者と課題解決のための取組に焦点を当てながら協議・活動を進めます。

③本事業を推進するにあたっての他自治体へのアドバイス

現在、香川県は4名のコアメンバーで会の目的・協議内容・関係機関への根回し等について何度も協議を実施しスムーズな事業展開を心がけています。コアメンバーは人事異動等で代わりますが体制を崩すことなく取り組めるよう、コアメンバーの必要性も浸透しています。



相模原市

①構築支援事業で取り組んだこと、その効果・成果

相模原市では、令和元年度から、更なる推進と事業の外部評価を受けることを目的とし、構築支援事業に参加しました。地域における実践の中で、当初は「連携がうまくいかない」「顔が見えない」等の声が聞かれていましたが、アドバイザーからの助言を踏まえ、協議の場における意見交換からヒントを得て、他機関と合同の事例検討会や「にも通信」の発行、その他の取組などによりベースが作られ、一定の効果を得ることができました。

②今後の展開方針

令和3年度は対外的な取組がかなり制限されたため、令和4年度は予定していた取組（事例検討会や研修、庁内調整等）から優先して実施することを考えています。また、協議の場をより活性化させる仕組みづくりが必要と考えており、各会議体の連動、その土台としての現場や民間、地域の意見を聞くなど、中長期的な視点で“民のチカラ”を借りながら体制の構築を進めていきたいと考えております。今後もアドバイザーを担ってくださった方々とのつながりを活かし、事業を推進させたいと思います。

③本事業を推進するにあたっての他自治体へのアドバイス

構築支援事業で特徴的であったのがアドバイザーの存在です。これまで取り組んできた事業や方向性に対して、第三者的な視点からいつも肯定的に支えてくれた広域アドバイザー、我が事として意見をくれた密着アドバイザーがいたおかげで、コロナ禍にあっても流れを止めることなく事業を推進させることができました。アドバイザーとの出会いは、事業を1人で担っているような自治体にこそ有効であると思います。

名古屋市

①構築支援事業で取り組んだこと、その効果・成果

平成30年度から構築支援事業に参加し、一人ひとりの協議の場、市内16区を4区ごとに分けたブロックによる協議の場、市域全体の協議の場の3層構造で「にも包括」の構築に向けた取組みを進めてきました。当市のエンジン部分である各ブロックに1人ずつ都道府県等密着アドバイザーを配置し、国の会議等に出てもらい課題を共有し、市の担当者のよき相談者になっていただきました。また、広域アドバイザーには当市を客観的に見てもらえるため強みや取組の課題に関する意見をいただけたことで、取組みに対する動機づけになっていました。

②今後の展開方針

今後も3層構造で「にも包括」の構築に向けた取組を進めていきます。この4年間で地域であがった課題に対する取組みとして各種事業の活用・拡充を図ってきたため、今後も一人ひとりやブロックで協議を続けていくこと、他の協議体との連携等について協議を続けていきます。

③本事業を推進するにあたっての他自治体へのアドバイス

「にも包括」の構築に向けて何から始めていけばいいのか手探り状態でスタートし、都道府県等密着アドバイザーは同じように悩んでくれる仲間でした。また、他都市の取組状況を会議やポータルサイト等で確認でき、刺激をもらったり、参考にしたりしていました。一つの機関でがんばりすぎないということが難しいですが大切だと感じました。